

Japan Heart連携プロジェクト ～カンボジアで周術期看護の育成支援を～

日本手術看護学会 & NGO ジャパンハート: 山本千恵 後藤紀久 ミルズしげ子 木村美香
ワーキンググループメンバー: 原健太郎 河合桃代 中村裕美 佐藤明日美 藤井祐美子 鈴木知美

プロジェクトの目的

◆周術期看護の学術的または教育的支援

当学会の使命にある「手術看護専門領域を担う看護師の人材育成を推進する」に基づき、人材育成のための教育的支援を行う。

◆国際・国内関係学術団体等との連携および提携

当学会の事業内容にある活動として、今年度は、ジャパンハートと連携を取り、周術期患者への質の高い看護の提供を目指す。

◆国際貢献

ジャパンハートとの連携プロジェクトをもとに、周術期看護分野での国際医療貢献を目指す。

プロジェクトの取り組み計画

カンボジア看護師の周術期看護の 基礎に関する育成支援

1. 手術室看護師の役割についての学習支援

1つの術式(乳腺摘出術)を通して、手術室看護師が担う役割を学ぶ機会を提供する。

2. 外回り看護に必要となる知識、技術の指導

- ・手術体位固定に対する神経障害予防の学習支援。
- ・皮膚障害予防の学習支援。



カンボジア・ジャパンハート
こども医療センターの視察は、
以下のQRコードにアクセス
すると、日本手術看護学会の
公式ブログで詳細を見ることが
できます。

カンボジア・ジャパンハート こども医療センター

現状視察報告

日本手術看護学会
×
ジャパンハート



【視察日程】 視察期間：2024年5月20日（月）～5月23日（木）

1日目

1:25 羽田空港よりカンボジアへ出発 (ベトナム乗継)

羽田空港からホーチミン経由で
翌朝、プノンペン国際空港へ到着。



9:30 カンボジア プノンペン到着



13:30 こども医療センター到着

施設内見学・ 患者カンファレンス参加



常勤スタッフやボランティア参加者が
医療チームを組んで活動。
看護師はカンボジア人が中心。

子ども医療センター前



左から鈴木、後藤、
吉岡代表、山本

2日目

9:00～17:00 手術見学



小児手術を中心に
緊急帝王切開、
成人手術に参加視察。



体位は固定枕やシーネ類を
タオル等で代替えしたり、
針カウンターを布で手作り。



チームは現地スタッフとボランティアの混合。
十分なコミュニケーションが必要。
メンバーが今まで経験してきた医療背景も違う、
言葉で主体的に確認することや意見を伝える
ことが重要。英語が中心だが、
日本語やクメール語(カンボジアの言語)が
飛び交っていた。

3日目

9:00～11:00

ジャパンハートスタッフとの手術室での 看護の現状と課題についての意見交換



地域柄、虫が多く手術中にも
飛来する虫対策を実施。
虫対策に使っていた
ラケット型の電撃殺虫器。

ICT(感染制御チーム)を結成して、限られた水場で清潔・不潔
のエリア区分けを行うことで感染を低減した経緯があった。

手術室前室



手術は緊急度によって3段階に仕分けられ日程
調整が行われる。前室で手術衣に更衣して待機。
手術直前に麻酔担当医師(あるいは麻酔ナース)
が診察した後に手術室内へ入る。

カンボジアでは入院中は家族が付き添い、
患者や患児の療養生活全般の世話を
するのが一般的。病室で複数家族が
療養生活をしている。



患者の情報やデータ、同意書などは
紙カルテで運用。病室横にあるプレイルーム、
治療中でも活発に笑顔で遊べる環境が
出来ている。

屋外で外来診療を行う。屋根や扇風機はあるが、
診察を待つ患者や家族のスペースも同様。
隣の公立病院も同様で、カンボジアでは
一般的なスタイルとなる。



4日目

18:20 プノンペン国際空港より日本へ出発 (ベトナム乗継)

7:00 成田空港到着

